

水辺と、人と、街と。

〈特集〉

ウォーターフロントは、いま。

—神戸とウォーターフロントを考える—



7 開港都市の“水”が一つになった

’88 ウォーターフロントサミット イン K O B E

神戸宣言 昭和63年2月20日

日本を代表する歴史的な港町の7都市でウォーターフロントを生かした街づくりに取り組む市民グループが、本日初めて神戸に集い、ウォーターフロントについて熱心な討論を重ねた結果、その意義と内容を広く市民にアピールする為に、ウォーターフロント神戸宣言を行う。

ウォーターフロントが(1)人々に潤いと安らぎを与える憩いの場であり(2)人々の出会いと交流を提供するコミュニティ広場であり(3)地域文化の情報発信基地であり(4)自然のエコロジーを考える学習の場とする。

そのために、各港町の風土、歴史、文化を大切に、殊に地域の歴史的資産である歴史的建築物の保存、再生に留意しながら、市民にコミュニティとアメニティーを提供できるウォーターフロントづくりを行う、そして市民、地域事業者、行政が壁を乗り越え相協力しながら地域の活性化に貢献する。

最後に、本日を市民によるウォーターフロント元年と決め、今後のサミットを毎年継続して開催することを誓った。

ウォーターフロント——昨今、この言葉を耳にする機会が多くなった。いわゆる“水際開発”。都市再開発の切り札として世界的に脚光を浴びているウォーターフロント。神戸でもこのほど「’88 ウォーターフロントサミット」が開かれ、開港7都市の代表によって別掲の“神戸宣言”が出された。

小誌は、これを機に、上記サミット及び昨年の神戸商工会議所の米国ウォーターフロント視察報告の要約および独自の取材により、現時点での神戸をめぐるウォーターフロントの諸問題をまとめてみた。一つの問題提起となれば幸いである。

〈編集部〉

△特集▽神戸とウオーターフロント (1)

世界を結ぶ 港のネットワークづくりを

水谷 頴介△都市計画家・建築家▽



二月二十日、神戸海洋博物館ホールにおいて、「『88ウオーターフロントサミットインKOBÉ』主催／神戸ウオーターフロント市民連絡会」が開かれた。

本稿と次の「七海港都市からの報告」は、当日の講演・パネルディスカッションをまとめたものである。

(文責・編集部)

ウオーターフロントを考える場合、三つのアプローチがある。都心のウオーターフロント、郊外・住宅地のウオーターフロント、リゾートとしてのウオーターフロントだ。ここでは、「都心とウオーターフロント」をテーマに話を進めたい。

まず都市のとりまき方であるが(1)ポート・コミュニティ(2)町住区(3)遊芸空間の三点から見てみたい。ポート・コミュニティとは、交通あるいはもって広げて「コミュニティケーションと町」という側面から町を考えること。住まいと経済つまり仕事場とが、うまく結びついたかたちでの町を考えるのが二

つ目。三つ目は、経済中心に考えるのではなく、町住区をつないでいるもののこと。たとえばレクリエーション施設、キャンパス、文化センターなどである。

では、この三つの視点から次にウオーターフロントを考えてみたい。

まず、港町という背景・条件を抜きにしては語れぬということ。

二番目には、本来は港町として成立していないといけないのに、たとえば「住」の部分の抜けてしまつて、町としては分解されているが故に、ウオーターフロントが課題となっているという部分がある。果してこれではウオーターフロントが本当に成立するのか。まず魅力ある町をつくること。そうでないと単なる一過性のものになってしまう。

三つ目の視点としては、経済的に取り残された港を、ウオーターフロント開発という視点で活用することを考えてみたらどうか。

まず港の問題のあり方とウオーターフロントを切つて考えてはい

けないと思う。港のあり方は、戦後は、その立地などを慎重に考えて必ずしもつくられていない。物流を拡大しないといけないということばかり考えて、埠頭を造つたり埋め立てをしたり、港をスプロールして来た。だからウオーターフロント開発として取りあげられている場所は、港としては食い荒らされて偶々残された場所、港として使う積りが、結局港としては機能しなかった場所などであつて、本来の位置づけにおいてそうなたたけではなく、戦後の港湾行政にふり回されて、その結果残つたところが対象となつている。

たとえば東京湾。ここでは港をどうするかについては、殆んど触れられていないのが実情だと思ふ。港そのものの位置づけが抜けてはいけない。

神戸でも、港がしっかりと生きていたから町が成立したのだが、ではこれから三十年なり五十年なり先には港は一体どうなるのか。本当はそれを先に考えないといけないのに、それが抜けている。港



港のネットワークづくりを提唱する水谷観介さん

を抜きにしてウォーターフロントを考へてはダメだということを再確認しておく必要がある。

次に港という空間の特質を考へてみたい。

まず相互交流であるということ。相手がいらないと成立しないスペースである。だからウォーターフロントを考へる場合でも、自分の町だけを考へていてはダメ。他の町のウォーターフロントはどうかということを考へることが必要になって来る。

次にゆっくりとした空間であるということ。たとえば神戸港に沖合いから船が入って来るとき、まず六甲山系が見えて、次に市街地が見えてというように、町全体が序々に見えて来る。町の全体像を見渡したかたちで港が存在すると見える。

こういう港のもっている空間特性をしっかり考へないとつまらない

い。つまり、市街地や内陸部でも出来ることをウォーターフロントで考へるとつまらない結果になってしまう。

最後に、これからのストーリーを話しておきたい。

一番目にポートアイランド、六甲アイランドのケースをどう考へるのかということ。都心の目の前に港が出来、土地が出来るということは世界的にも例がない。この条件をどう生かすかということ考へる。私はポートアイランドをベニスのような町として考へている。一方、六甲アイランドは、市街地とのアクセスということでは不便であるという悪い条件を逆手にとることが出来る。つまり町としての自立性、「離れ島」でも魅力ある町としての自立を考へないと成立しないのではないか。ポートアイランドの背後には、旧居留地をどう生かすかという問題があ

るが、六甲アイランドでは、国際学校が移転することもあり、外に開かれた国際的な町づくりが可能なのではないかと思う。

二番目には、たとえば神戸、たとえば下関というように、それぞれの都市を単一で考へるのではなく、たとえば観光の問題にしてもお互いに港をどう生かすかのネットワークが必要である。

三番目として、近代的な港ではなく、ローカル港、漁港につながる港として播磨灘の港、つまり環播磨灘の港をどうするか、何かいいかたちでのネットワークが出来ないだろうか。各港の再生と湾全体の展開があり得るのではないか。四番目に、海外の港とのネットワークづくりをどう進めるか。世界の港町の連合の中で、町のあり方を考へることも大事ではないかと思う。

以上を要約すると、個々のウォーターフロントがかかえる問題に各都市がアプローチしているが、ネットワークがぜひ必要であるということ。港は確かに時流に押し流されているが、そういう背景を知った上で、港を基幹にすえた未来像、将来像を考へること。こういうことを踏まえて各地で魅力あるウォーターフロントをつくって行きたいと思う。

小樽港 10年間にも渡る小樽運河 保存運動の展開

●北海道石狩湾南部に位し、1889年（明治22年）特別輸出港、同32年に開港場。石狩炭田の石炭積出し港として発展。一時にしん漁で栄えにしん御殿は有名。往時を偲ばせる小樽運河や倉庫の再開発と保存運動が行われた。舞鶴や利尻島へ船が出る。

●貿易／にしん、肉類、穀物等の食料品、アルコール飲料で輸出31億4千万円、輸入31億4千万円。

小樽再生フォーラム

峰山 富美



△特集▽神戸とウオーターフロント (2)

七開港都市からの報告

—小樽・函館・新潟・横浜・大阪・長崎・兵庫・神戸—

小樽はにしん御殿でも知られる様に漁港として有名であるが、北海道開拓時、道内への物資の流通港として重要な拠点であった。明治22年、特別輸出港の指定を受けヨーロッパ向けの雑穀輸出を開始するとすぐその相場を牛耳る程になる。それを契機に港の拡張が行なわれていったわけだがその中心事業として運河の整備というものがあつた。そして大正から昭和の初めにかけて小樽の全盛の時代を迎え、その当時の建築物が今なお残っており、歴史的重要文化財となっている。戦後、流通経路の変化に伴い小樽港は衰退の道をたどり、本当に寂しい思いをした。

その最中に持ち上がったのが運河を埋め立てて道路を作るという計画だった。私たちは「小樽を作ってきた原点は運河であり港である。」という考えから、10年に渡る運河保存運動を展開してきた。知事も残す考えに賛同し始めたが結局、61年に40mある河巾の半分の20mを埋め立てて道路を作るという決着に落ち着いた。良かった事として道路設計に当たり、国・

道・市の配慮でシンボル道路として、6万個の御影石を使うとかガス燈を設置というように運河公園に作り上げた。これが非常に高く評価され市民も港に対する関心を強く持つ事にもつながった。

それを引き金に10年間毎年ボートフェスティバルというイベントを起こし大好評を得る事になった。私たちは結局、運河を残す事には失敗したが半面、ひとりでも多くの人が水辺に関心を持つようになったという生きた財産を残せたと思っている。



函館港

文化財の価値観は、その場
にあってこそ初めて存在

●北海道渡島半島・函館湾の東に位し 1854 年（安政元年）に日米和親条約により 下田港と共に 開かれ'59 年安政の仮条約で開港場。江戸幕府の直領で函館戦争があった。ロシア建築が多く残存し、夜景は有名。北海道の玄関口だが青函連絡船は 3 月で廃止。北海漁業基地。

●貿易／魚及び魚介類、穀物、木材、石炭で輸出 71 億 5 千万円、輸入 137 億 6 千万円。

函館の歴史的風土を守る会

工藤 光雄



函館には約 550 年の歴史があり、かつ道内の経済の発祥の地である。昭和 52 年その遺産である、かつての開拓史の旧北海道庁渡島支庁庁舎を函館市文化財保護委員会と市長が、札幌の「北海道開拓の村」へ移転するという方針を打ち出した。本会は「文化財の価値感はその場にあるものが存在する」という主旨から歴史的遺構の保存を計ることを目的として発足した。広大な市民運動や、行政へのアピールといった運動の結果、今では北海道の指定文化財になった。先に国の重要文化財の指定を受けている函館公会堂と合わせて元町公園を再成して、歴史的な価値の中にいこいの場所として多くの人々に受け入れられている。

函館に生まれ生活している我々が、どのような形で函館という風土が形成されたのか、或いは先駆者たちが残したものを大切に育て子孫に伝えていくことは、我々の義務ではないだろうかという意図が 10 年間の文化財保存運動を通じて広く市民に浸透した事は、たいへん意義のある事だと思う。現在、大正 15 年建造のハリストス教会堂のキャンペーンを続け、昭和 58 年に国の重要文化財の指定を取り付け、目下修復工事中である。またさまざまな歴史的遺産の保存

のために条令の発布というものを熱望してきたが、ついに今年 8 月に発令すべく「函館の景観条令」の作成中である。勿論、各個人レベルでの郷土の愛着心等を育てるべく市民の勉強会、子供たちの写生会、といった運動も行なっている。

函館は海に囲まれた扇形の地形であり、開港 120 年をむかえ、領事館も 7 カ国を数えそのままの形で残っている。これら一連を函館の生きた歴史として保存していく、またウォーターフロントという形の中で湾岸道路であるとか、レンガ造りの倉庫等を外景保存の立場から、民間の手で再開発を行なっている。特に函館には近代日本建築物が 91 棟もあり、「函館の景観条令」の中ではそのすべてを保存していこうと考えている。



新潟港 “沈殿してしまった泥の上澄みだけの街” をかき回して

●信濃川の川口に跨り寛文年間に河村瑞軒によって江戸廻米の寄港地と定め 発展。安政の仮条約（'59年）で日本海唯一の開港場。佐渡への基地で新潟東港もあり原油、木材、鉱石類の中継地。新潟大地震後復興した。

●貿易／機械機器、化学製品、鉄鋼製品で輸出318億円、輸入1538億4千万円。

まちづくり株式会社

小疇 弘一

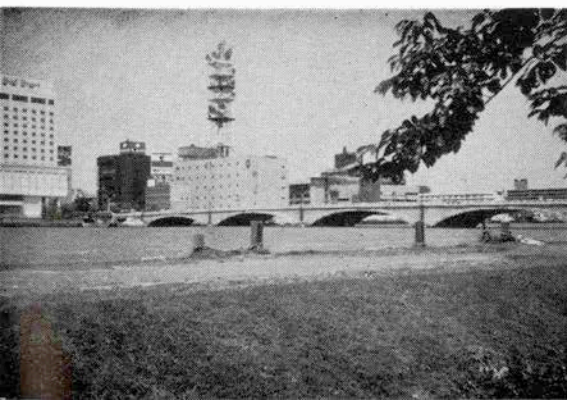


新潟という街はあまり特長がなく市民性として、そう文句をいわない非常に面白みのない街である。これを私は、“沈殿してしまつた泥の上澄みだけの街”と表現していた。どうせなら沈んだ泥を引っかき回して泥水にしてやろう、という考えから昨年「まちづくり株式会社」を作つたわけだ。

街というものは、都市計画課が作るものではない、市民全体が作っていくものであり、その一役を担うべく誕生した会社である。なぜこの様な株式会社にしたかという、お金を頂く事により責任のある発言を行ない、良い効果を持たらす。またこのような型式を取らないと具体的に行政から仕事が取れない、また街づくりのイベントや博覧会についてもマス媒体により全国一律的な催しが行なわれ同時に巨額の金が市外に出てゆくのを防ぐといった意味からだ。

新潟のウオーターフロントといえは街の中心を流れる信濃川、その河口に位置する新潟港、10kmもの海岸線を成す砂浜が上げられる。しかし、新潟市民はこの様な名所を利用しようとはしない。それどころかその良き自体に気付いていない。今回の景観調査ではつきりした事は、まず利用していないもったいなさ、そしてそこを無造作に使われた時の怖さ、という事

だ。たとえばその代表的な場所が信濃川兩岸の大きく開けた空間である。10数年前、ホテル・オークラが新潟進出に当たり、まず信濃川の景観を取り入れたこの空間にホテルの建設を行なった。市民は驚き、改めて信濃川の景観の良さを再認識し今度は川岸に高層マンションが競い合うように建ち始めるという事態があった。今まだ余地があるが近い将来、信濃川は兩岸にマンションが隣接した「死んだ川」になってしまう危険性が非常に強い。こういった事について我々は十分に干渉していかねければならない行政にも働きかけて行かなければならない。我々が運動を行なう事で少しでもこういった無関心さ、無頓着さというものを直して行きたいと思う。



横浜港 “川” 本来の意味を見つめ直す 事が死んだ川を生きた川に

●東京湾西部に位し1859年(安政6年)に神奈川港として開港以来生糸の輸出港として急激に発展、居留地は租界化した。日本を代表する大貿易港。大棧橋(元メリケン波止場)山下公園、中華街に人気が高く、帆船日本丸を誘致しドックパークに保存。昨年名建築を選んでライトアップ。

●貿易/機械、電気機器、自動車、科学光学機器で輸出6兆7393億2千万円。輸入1兆7969億3千万円。

よこはまかわを考える会

白瀧 敏弘



“よこはまかわを考える会”は都市の抱える問題を側面から考えていこうという目的でできた会である。以後、イベント等を行なう事により一般市民の参加が増え、現在200名の会員を数える。

横浜市の場合、その地形から川の上流へ行けばまだ開発し残された部分がたくさんあり、源氏ボタル等も市内の約60カ所の川流で生息が確認されている。これは行政によるさまざまな制度によるところが大きいのであるが、まだまだ上流に行けば非常に自然が多く残されている。しかし市民の意識としては川というものはあくまで都心を流れる中流、ないしは下流というものを指す場合が多く、川というものはドブであり、もう再生の見込みがほとんど無いと思われるがちであった。それに端を発して川にゴミを捨てるとか、川に覆いをしてしまうという事が起こってきたのではないかと考えてから、市民に川の良さをアピールしていく事で川に親しみを持っていただければと思い、さまざまなイベントを企画・実行していった。また市民と行政全体で川が良くなる方向に向かうよう勉強会を行ない、最終的にはひとりひとりの生活環境を快適なものにしていくように進んでいきたい。

以下代表的なイベントとして、

夕涼み会：行政約20名で始めた会で運河につり船を出し、酒を呑む会、一般市民にも好評で、毎年7月に開催。

横浜縦断カヌーフェスティバル：横浜湾近くの河口からスタートし都心部の運河を使ってカヌーのレースを行なう、手作りのカヌーも参加し観覧する者にとっても人気。

大岡川クリーンフェスティバル：商店街の裏を流れる大岡川を使ってその地区の活性化を計ろうというのが目的。最初は川にふたをする事でガレージのスペースを作り出すことを考えていたが、それよりも川を生かした方がアピールが高いという意見を尊重、商店街の人たちとの川の掃除、川を使ったイベントを行なう。



大阪港

川口・安治川地区を新しい
芸術・文化発信基地に

●大阪湾東北岸に位し淀川の三角洲に跨る。仁徳天皇の高津宮が置かれ秀吉の大阪築城で発展した水の都。江戸時代は北前船の発着港。1868年（慶応4年）安治川河口にて開市開港場。現在、南港と北港の造成で機能は充実。川口・安治川地区の倉庫群が市民により活用され運輸省も注目。帆船海王丸の誘致も。

●貿易／機械、電気機器、鉄鋼、木材で輸出2兆2064億9千万円、輸入9470億7千万円。

川口・安治川地区活性化
協議会設立準備委員会

国本 喜之



大阪市西区の中の島の西に位置する川口・安治川という場所です。町づくりの運動を行なう。120年前、大阪港は安治川をさか登った中の島の西の端で開かれていた。今では河川の埋め立てにより沖の方へ港が移ったせいで、この場所は港としての機能を殆んど無くしているが、居留地であったという歴史であるとか港の名残りで倉庫や港街的な空間が随所に残っている。

“安治川地区活性化協議会設立準備委員会”はそういった歴史的な物や空間を活用して新しい町づくりができないかということを通して、一歩に発足した。

他の開港都市とは違い大阪・特に安治川地区には洋館の様な景観に値いするものが殆んどなく、当然の事ながら町づくりの姿勢も違ったものとなる。町づくりのタイトルとして“川口・安治川異人町”を掲げているが、具体的には、一つには現代版居留地―外人向けマンション街を作り、多くの外人に住んでもらう。もう一つは残存している倉庫をニューヨークのソーホーの様にアーティストやクリエイターに創造の場として転用できないだろうか、というふうなものである。この二つを主目的に活動する事により、川口・安治川地区を新しい文化や芸術の発信基地にしていければと思っている。

開国時、どの地域も諸外国からの文化・物質により文明開化を遂げて来たわけだが、日本が豊かになった現在、逆に日本の中で育った芸術・物文化といったものを空間を含め、この地区から発信していけないだろうか。そしてそれが新しい時代の文明開化といった意味を持ってくるならば、都市としても活性化していくはずである。

そういう考えから我々は、残された歴史的な財産というものを保存していくというよりはむしろ、第二、第三の利用法を提案したり実質的な利用者と所有者間の賃借交渉、さらには倉庫利用希望者の組織化といった構想実現に向けての活動を行なっている。いわば生活空間実現による地区活性化をめざしているといえる。



長崎港

毎年2棟ずつ壊されている
洋館の保存運動を

●長崎湾の奥、浦上川河口に位する。1571年ポルトガルに開港以来、鎖国後も出島を中心に唯一の貿易港としてオランダ船や唐人船が多数入港し発展。1859年（安政6年）に本格開港場。洋館が多く歌劇蝶々夫人は有名。底引網漁基地で水揚げ量も全国有数。外国客船入港日本一。

●貿易／機械機器、船舶、食料品、石油で輸出1124億3千万円、輸入227億7千万円。

長崎の洋館研究保存会

村田 明久



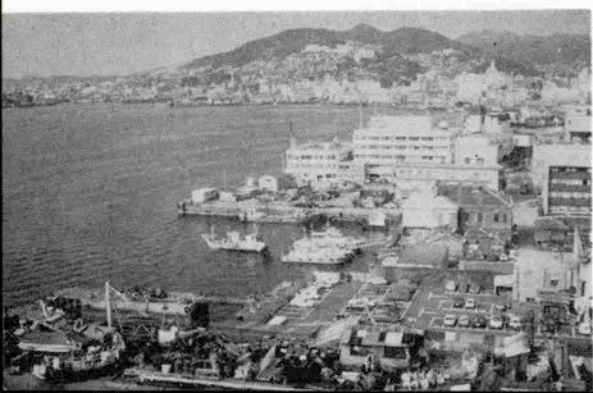
長崎は来年開港130年を迎える45万人の人口が、すり鉢状の地形の中に生活するかなり高密度な街であり、その中に居住地、オフィス街、そして長崎港が揃っていたが、近年、港と市街地というものの距離が間いてきている。その理由としてひとつには戦時中、戦艦の造船に当たり外部から見えないようにドッグを塙で囲むなり、目隠し倉庫といった具合に港に対して壁を作る事が必要不可欠な条件とされた。もうひとつには、高度経済成長時、商業地域を中心に街が発展していき、港が疎かにされてきた、という事が上げられる。

また長崎は坂と洋館の街として有名であるが居留地内で55棟、市街地では80棟の洋館が建っている。これは全国の洋館の約8分の1が長崎市に集まった計算になり、この殆んどが明治初期に建造されたもので、他都市の洋館に比べると非常に老朽化が激しい。そういう理由から現在、利用しながら上手に残しているものは少なく、利用されている建物もそろそろ手を入れなければ寿命が来るといった具合である。現実の問題として、年2棟の割合で洋館の取り壊しが行なわれている。それに拍車をかけるように市の事業のために取り壊しその場所に新しいイベントホールを建てるという事さえ

行なわれている。

「長崎の洋館研究保存会」では市民に広く市内にある洋館の分布を知ってもらう事が、洋館の取り壊しにブレーキをかける事だと考え、'85年3月「長崎洋風建築地図」を発行し、さらに'85年9月には、その第二版として英語版を発行した。また「洋館散歩」では、会員以外からも参加者を募り、洋館と肌をふれ合うといったウォッチングや、その洋館が実際に利用されていた時代の研究、必要性といった意味から古老との聞き語りを行なってきた。

洋館を単なる観光の名所としてだけでなく、それを利用する事が結果的に保存につながっていく事であると思うので、これからどんどん運動を続けていきたい。



兵庫港 古くから歴史のある港・運河を 守ってゆきたい

●1892年以降、当時流れていた湊川を境として位地していた兵庫港と神戸港が一括されるまで絶えず現在の神戸港の前身として神戸繁栄の一役を担う。古来天然の良港であり弥生時代より「務古水門」としてすでに海上交通の基地であった。現在兵庫突堤として中心取扱ひ品は青果、雑穀、機械プラント等。

●貿易／神戸港参照。

兵庫運河美化連絡協議会

中川 安庸



兵庫区並びに長田区に横たわる兵庫運河の美化と環境保全を目的として、企業と住民の連帯の元で結成された「兵庫運河を美しくする会」を母体として運河周辺の自治会、婦人会を統合し、「兵庫運河美化連絡協議会」を組織する。

兵庫運河は明治4年に兵庫地区を襲った暴風雨により難破船が580隻、死者24名、行方不明16名を出した大惨事を二度とくり返してはならないといった意味から神田兵右衛門が建設。そしてそれよりずっと以前、平清盛が福原に遷都し「大和田の泊」と呼ばれた時代、中国との貿易をさかんにするため、に港の大改修を行なう上で、兵庫運河の必要性といったものが謳われていた。

戦後の復興建設や昭和30年代に行なわれた経済成長の過程で産業排水や家庭汚水のたれ流しが行なわれた結果、運河が汚れヘドロが溜りそれがメタンガスの発生を引き起こし、臭気が漂うまでに至る。その事が運河に従事する作業員の健康を損うといった原因にまで発展していく事になった。昭和46年に運河周辺の企業97社が官庁の協力を得て官民協同で兵庫運河の美化、環境保全に立ち上がり、下水道の完備、公害防止条令の定結、公害防止設備の強化という事を行い、急速にさまざまな問題を

改善すべく力を注いできた。

また、この兵庫区、長田区の南部は国際都市神戸のルートともいえる歴史的文化的地域であるが、近年の社会及び経済環境の変化によりいわゆるインナーシティ現象が起こって来ている。その活性化のために市民と行政が共に考えようと「兵庫津、復権振興協議会」が結成され、この地域の活力を高め、復権かつ振興につながる住民運動を行なっている。

具体的な活動として定期的に運河の清掃、運河周辺の汚濁防止、ゴミ投棄防止等の啓蒙監視、通報、運河の環境整備美化のため行政への要望や連絡を行ない、ウォーターフロントの一環としての役割りを果たしていきたいと考えている。



神戸港

水際に於ける真の意味の開発を
めざして

●大阪湾北西部に位し六甲山麓に広がり明石海峡に近い。有史以来大輪田の泊（奈良時代）中世には瀬戸内の重要泊地兵庫津として発展し、幕末に海軍操練所が置かれた。1868年1月、安政の仮条約より9年遅れて開港場。人工島でのポートピア博は有名。コンテナ扱い日本一。洋風建築の保存運動も。

●貿易／繊維製品、電気・機械機器、食料品で輸出4兆2797億1千万円、輸入1兆6467億2千万円。

神戸港を考える会

角本 稔



神戸港は去年で開港120年を迎え、その歴史とこれからの発展についてますます印象を深める事となった。市民はこの20年の間、急速に近代化とコンテナ化が進み、

もはや神戸港には情緒が感じられなくなったと親近感を抱き得なくなったのが実情である。去年、旧メリケン波止場を整地し埋め立てて出来た「メリケンパーク」には神戸海洋博物館も建ち、公園も出来たが、今一つ物足り無さを感じる。これは本来人間と海とが共に歩んできたという温かみというものが強く伝わって来ないからである。

「神戸港を考える会」は一昨年の9月に海・港・人が手を取り合っただけだった歴史をもう一度見直す事で、これからの街や港の有り方を検討していこうという主旨の元に発足した。

市民への問い掛けの意味で、今までわがりにくかった港街界隈を整理した「ポート・ウォッチング・マップ」を発行し、実際にその土地にふれる事で知識と共感をしてもらうよう努めたり、大学講師や商工会議所のメンバーを招いてウォーターフロントの勉強会を2度に渡って行なった。

港から離れた場所に位置する北野町界隈は、TVでも放映されたおかげで異人館街として有名だが海岸近くにも知られていないだけ

で明治末期から昭和初期にかけて造られたネオルネッサンス、ゴシック、古代ギリシアやローマ風の近代洋風建築が30棟余りも現存しており銀行、官庁、貿易会社、船会社のオフィスとして使われている。そして残念な事にやはり他都市と同じように、さまざまな理由で解体されつつある。

我々はこのような事を単なる個人レベルの感傷といった立場からでなく、その利用価値、景観、必要性、ひいては市民の要望といったさまざまな観点から分析、検討し、運動を起こすといった活動を行ってきた。そして今、神戸市という一都市レベルでなく開港7都市が合同でウォーターフロントの検討を行なえる場を持てた事を誇りに思う。



△特集▽神戸とウォーターフロント(3)

アメリカ東海岸の ウォーターフロントを見る

去る昭和62年9月、アメリカ東海岸における最新の流通事情の調査並びに商業を核とした、ウォーターフロント再開発事例の視察を目的に、三宮・元町・北野等をはじめ、これからの神戸の商業を担っているであろう若手小売商業者35名が、神戸商工会議所のアメリカ東海岸最新流通事情視察団に参加した。今回の視察では、シカゴ・ワシントン・ボルチモア・ボストン・ニューヨークの東海岸寄りの5都市をまわり、各々の都市の最新商業施設や商業を核にした、ウォーターフロントの再開発事例を視察した。以下は、三浦明定・古川周二・江見義麿・東條隆裕・永田耕一各氏の報告より構成させて頂いた。

★シカゴ

◇マグニフィセントマイル(奇跡の1マイル)は、一九六〇年代より発展したシカゴ随一の商店街。ノーズミシガン通り約1マイルに渡って、ボンウィット・テラー、アイ・マグニン、エルメス、ティファニー、グッチなどの専門店群と、75にオープンしたウォータータワープレイスやマリオットホテル、シエラトンプラザホテル、ジョン・ハンコック・センター、ニーマン・マーカー等の大型施設、マーシャルフィールドとロード&テイラーの二大百貨店が核となり吹き抜けの大アトリウムを中心に120店のテナントを配したショッピングビル、などで構成されている。このマグニフィセントマイルの北側のミシガン湖岸沿いには、シカゴのゴールドコーストと

呼ばれる高級マンション群が控えている。

◇ウォータータワープレイスが、それまでの繁華街の反対側1kmのところにて75年出現したことにより、客の流れを決定的に変えた。この建物は複合使用目的ビルで、74階建て、2つの百貨店、120の専門店、劇場、3つの映画館、オフィス、高級分譲マンション260戸、リッツカールトンホテルなどが入居しており、SF超モダンな外観、建物のデザインのユニークさで好奇心をそそり、内部に誘引する力を持っている。

この都市のウォーターフロントの開発は、巨大ビルの林立が緑豊かな公園ベルト地帯とミシガン湖に面して、この都市が新しい「近代ウォーターフロント」の開発の在り方を教えてくれている印象が

あるようだ。都市を「着飾る」には、やはり自然美を取り入れ、都市の「賑わい」は商業者の豊かな創造性が必要であり、シカゴに、人々がそこに住んでみたいと思う快適な都会生活を享受出来る「街造り」が進んでいると言えよう。

★ワシントンD・C

市内の建造物はワシントン記念塔より低く抑えられ、14階以上の建物は、法律で禁止されている。緑が多く、巧みに水(河)を入れたんだ心安まる公園都市である。

◇ジョージタウンは「古都」ワシントンのイメージを残した路面商店街で、市中心部の西北2.5kmにある約100ヘクタールの一画で、19世紀のイギリスの雰囲気漂っている。中心は、Mストリートとウイスコンシン通りの交差点付近

で、当地のテーマモール、「ジョージタウンパーク」もあり、ナイトライフとショッピングのポイン
トとして人気が高い。

◇ジョージタウンパークは、ジョージタウンとボトマック河の間の古い倉庫街を、昔の雰囲気を残しながら整備・開発されたモールで、ビクトリア調をテーマにして
いる。

1~3Fが店舗、4~8Fがコンドミニアム、本館と別館の間を運河が流れていて、客層は25歳~35歳のホワイトカラーを対象にしており、土産品の店が多い。建物のユニークきは、モール内部からは目に入らないが、3階建の上

に5階建のコンドミニアムが乗っていることである。

◇ワシントンハーバーはボトマック河畔に建設中のマルチユースの建物。オフィス、コンドミニアム、レストラン、テラスレストラン等で構成されており、ワシントンハーバーの面する川沿いに約1km近く、木製の栈橋を設置、遊歩道として開放、夜11時まで営業しているテラスレストランからの眺めは素晴らしく恋人達のプロムナードとなっている。

★ポストン

◇ファニエルホール・マーケットプレイスは、この市街地再開

発の発端が古建築物保存を考える人々の提言であることに象徴されるように、他の都市再開発とは異なり、歴史には手を加えないことをポリシーにしている。独立戦争のきっかけになった会議が開かれたというファニエルホールとクインシーマーケット等の歴史的な建物を中心に、建国二百年祭を機に再開発されたマーケットプレイスで、ポストンウォーターフロントの核の一つと成っている。

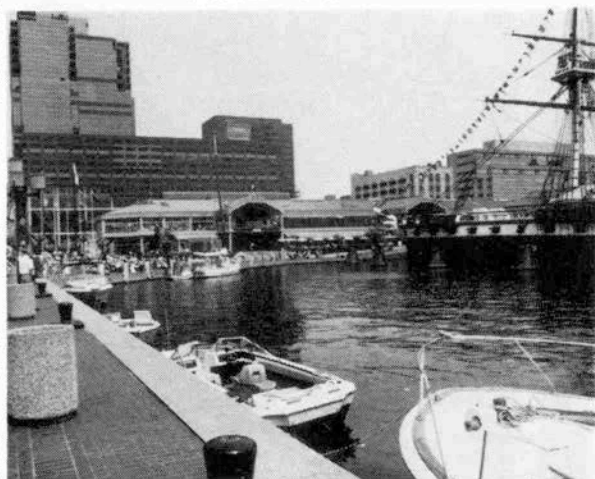
二万四千平方メートルの敷地に、先の二つの建物の他、ノースマーケット、サウスマーケットの計4棟の伝統ある建物の外観を修復し、内部を小売とオフィスのフ

シカゴ・海岸線



ワシントンハーバー

ボルティモア・インナーハーバー



ボストン・クィンシーマーケット

ロアに再生した。モノを買う目的の人には少々不便で効率の悪い構造だが、時間を過ごす人々の観点から見れば、非常に楽しい街に再開発されており、逆に言えば、そのために立地の優劣の格差が顕著に表われているようだ。

★サンディエゴ

◇ホートンプラザはダウンタウンの再開発によって誕生した街で、サンディエゴの中心の、スラム化した最も治安の悪い場所に、15年の期間をかけて完成した。4店のキーテナント、ロビンソンズ、ザ・ブロードウェイ、マーヴィンズ、ノードストロムと、160店舗の専門店、それにシアター、ホテ

ル、バーキング等を有するショッピングセンターである。この都市も人口のドーナツ化現象により、ダウンタウンはスラム化されていたが、イメーリアップと活性化を目的に「今の生活に満足せず、何かを期待し何かを求める人々」をターゲットにしてつくられたこのショッピングセンターの特徴は、機能性、合理性の追求の否定からくる、不合理な美の表現であろう。回遊導線は迷路のようであり、目的地につくまでの空間場面の変化がそれを示している。

★ボルティモア

◇ハーバープレイスは、ボルテ

イモアの都市の再建を賭けたインナーハーバー地区再開発計画の中心となる存在で、ウォータフロント開発では全米一の実績を誇るラウス社の最大のプロジェクトでもある。現在、年間二百万人を集客しており、この成功がアメリカのウォータフロント開発のきっかけになったとも言われる。

ボルティモアインナーハーバーと隣接する市街地チャールズセンタの再開発ゾーンは、インナーハーバーの最も奥まった湾とそれを取り囲む二棟のムードある建物と、その中心部にあるお祭り広場が集まって核となり、ハーバープレイスショッピングセンターと呼

ばれている。二棟の建物には131の店舗が入っており、そのお店はすべてローカル色の強い個人経営の店ばかりを集めているという。その内の飲食店街は、屋台と迷路の密度の高い空間が演出され、「食べる」という事に楽しさを与えている。

また、この周辺には、ホテル、博物館、水族館、コンベンションセンターなどが隣接しており、ハーバープレイスとは高架になっている遊歩道で接続され、街全体が高度に複合化されている。

この都市のウォーターフロントに対する考えで特徴的なのは、水と「仲良く」する事に智慧がしばられていることだと言える。まず、海水と人間の接点は手で水遊びが出来るくらい低く、階段式に段々と高くなって防波堤となっている。また、その階段は野球場の観覧席と同じ役目をしてお祭り広場の見物席となっている。資本のためでなく、人間のために、都市・地域の開発を進めるリーダーが必要で、忘れてならない基本コンセプトは「水と仲良く」である。

★ニューヨーク

◇サウスストリート・シーボートは、19世紀に蒸気船が海運の主役となるまで最も栄えたマンハッタン南端の魚市場・波止場跡を、

83年5月に第1期、85年に第2期が完成オープンした、都心再開発型ショッピングセンター。

デベロッパはラウス社で、第1期はフルトンマーケット、第2期はピア17と呼ばれ、グルメ中心のスペシャリティセンターとして人気を集め、水際のやすらぎを生かしたダウンタウン再興のきっかけとなった。

ニューヨークに限らずアメリカの商業地においては、住み分けが非常にはっきりしており、商店の側でも対象に合わせた品揃え、店づくりをしている。一つの街の中でいくつもの商店街がある場合、それぞれの商店街が個性を主張す

る必要は大きく、同じものと同じように売っている何にもならないと言えるだろう。

◇オーランドはフロリダ半島の真中辺に位置する、何の変哲もない人口5万人の町が、ディズニワールドが出来たことで人口45万人の町となった。

ディズニワールドやNASAに言えることは、集客を目的とした施設であるなら、いかに来る人の便利を考えるか、また、来た人をどのように楽しませるか、という二つのポイントをとことんまで考える必要があり、そこそこの施設ではそこそこの人しか集められないと考えられる。



ニューヨーク・ピア17

経済ポケット ジャーナル



★アーケードとサンキタ
通りが新しくなった!



オープニングセレモニー

昔から神戸・三宮北側玄関口であつた三宮阪急前商店街のアーケードと名称が新しく変わった。

旧アーケードは神戸で一番古いもので、戦後20年代に建てられ、30年以上も風雨に耐えてきたわけだが、今回思い切つて建てなおすことになった。アーケードの長さは240m、幅が6m以上あり、パイプはステンレス製で透明ガラスがはめ込まれており、神戸の明るいイメージとピッタリあつて、これからの若い人たちの通りになることが期待されている。

★電話にこんな使い方も?!

2月8日、N.T.T.テレフォンアシスト機(田中敬子支店長)が神戸に誕生し注目を浴びている。これは電話のもつ即効性、双方向性を利用しビジネスに生かせるというもの。しかも女性を中心としたスタッフで心の通ったコミュニケーションも期待できる。業務内容は、電話代行サービス、市場調査、



支店長の田中さん
フィールド

サービス(企画、制作、販売)が思いのままできる)とすぐ役に立つものばかり。笑顔の素敵なお客さんは神戸っ子、神戸の地域性を生かし、きめ細かなサービスで皆様の企業戦略のお役に立ちたい」と抱負を語る。営業時間AM8時~PM9時(三三七一一八八無休)

★第7回「神戸国際まつり'88」開催!!

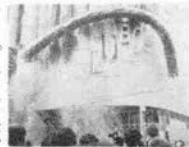
「国際化、意識改革の時代」をスローガンに神戸輸入促進フォーラム主催により「第7回神戸国際まつり'88」が3月19日(土)神戸国際会館で開催された。



小島男佐夫近畿大教授

講演会では、小島男佐夫近畿大教授の講演「歴史の考察による、日本の現状と将来」のほか、田嶋克巳神戸輸入促進フォーラム代表理事、佐野博持全中貿易兵庫連盟理事長、団忠夫神商貿易部会長他各企業代表者より国際社会における日本のあり方」を21世紀へ向けての提言」として発表された。

★東急ハンズ三宮店
ついにオープン!!



正面玄関

3月18日(金) 18時
東急ハンズ三宮店が

オープンしたが、12時半からのセレモニーでは、本場サンフランシスコのパルーニアートや、英王室のエジンバラ公とマーガレット王女がそれぞれ総裁をつとめるマーチングバンドとバグパイプ奏者のパフォーミングが行なわれ大いに盛り上がった。



マーチングバンド演奏

も行列がでるほどの人気で、注目度の高さが思い知れる。

★KOBEOフィスレディ★



江坂店にオープン以来4年半いたが、三宮店開店のためこちらへ来た。仕事は販売促進課で主にカタログ製作をやっている。見るだけで楽しくなってくる。あのハンズのカタログを作っているのが彼女というわけだ。休みの日には水泳、ジョギング...と、さすがに趣味も多彩で、昔、バーテンダースクールに通ったこともあるというほどの凝り性でもある。三宮店のカタログがますます楽しみです。西宮市在住、牡羊座のA型。

南 好恵さん(31)
〈東急ハンズ三宮店
販売促進課勤務〉

TOWN DIAL

タウン

ダイヤル



NTT

神戸078

●NTT

テレホンショップ西神

3月29日 オープン

☎991-7800



生島店長

見る楽しさ、さわる楽しさ、そしてサービスあふれる「NTTテレホンショップ西神」が地下鉄西神中央駅・フェルマータUの2階にオープン人気を集めている。

このテレホンショップは神戸で、初めてのもの。

業務内容は各種商品の展示、販売、コンサルティング、注文の受付、承諾、サービスオーダーの作成、料金の受け

入れと、多岐に渡っている。

店内は100㎡の広さの中に、ブルーと白のさわやかインテリア。生島店長と男性1人、女性3人の5人のフレッシュスタッフがさり気なく、笑顔で迎えてくれるのもうれしい。自由に使いながら納得のいく商品選びができ、子供から大人そして女性にとっても強い味方。

またショールームでは電話機のほかKPCのキャプテンシステムでホットな神戸の情報が得られたり、めずらしいテレホンカード、さらに身体の不自由な方のための福祉電話も販売している。

西神ニュータウンのコミュニケーションスペースとしてホットなショップになりそうだ。

営業時間 AM10時～PM7時
土・日曜も営業
定休日は毎週木曜日



西神中央駅 フェルマータU

★店長の横顔

スリムなボディに小麦色の顔。笑顔がさわやかな生島さん。それもそのはず、趣味はスポーツとかで、神戸支社管内の陸上部のランナーだ。毎日、自宅の三木市内から西神中央駅の職場までの往復をジョギング通勤/15キロあまりを1時間ちょっとで走っているタフマンだ。スポーツマンのねばりとさわやかさが店作りに反映しそう。家庭では奥さんと二人の子供さんのよきお父さん。39歳。

★伝言ダイヤルサービスってなあに？

この春スタートした新サービスボタンひとつでメッセージが。あらかじめ決めた連絡番号、暗証番号を利用すれば、プッシュホンを押すだけで、誰でも自由に使える声の伝言板。さあ、あなたは何に使いますか？ 恋か、仕事か、お遊びか！ お問い合わせは最寄りのNTT電話局へ。

★愛読者プレゼント

- ・NTTハロースポーツプラザたるみの体験チケット 1枚
- ・NTTテレホンアシスト 1枚
- ・KPCポートキャプテンテレホンカード 1枚

上記3点セットを先着10人にプレゼント。

お申込みはFAXで（住所、氏名、職業をご記入の上 251-9567へ）

バーバーランド 今、水辺が復活する！

■座談会出席者（敬称略・五十音順）

嶋田 勝次〈神戸大学工学部教授〉

小林 郁雄〈株式会社コープラン代表〉

喜旦 元和〈神戸市市長総局企画調整部長〉

松下 綽宏〈神戸都市計画局計画部
バーバーランド建設室室長〉

橋口 勝禧〈神戸市経済局観光課課長〉

天川 佳美〈「バーバーランド」命名者〉

今、街づくりの新しいキーワードとして世界中で話題になっている「ウォーターフロント」。神戸においてもさまざまな水際開発のビッグプロジェクトが完成、または進行中である。今回は、その中でも、今着々と完成に向けて進行しているハーバーランド計画にスポットを当て、進行の現状や可能性などを水際開発に取り組む各界の人たちにうかがってみた。



嶋田 勝次さん

界限性のある多機能複合都市の実現

—— 昨年の神戸商工会議所のアメリカ主要ウォーターフロント再開発例視察やメリケンパークの完成に始まり、先日は全国から8港湾都市が参加しての「88ウォーターフロントサミット・イン・KOBÉ」の開催、また、ポートアイランドの第二期工事や六甲アイランド、ハーバーランド計画など新しいプロジェクトも動き出し、神戸においてもここ数年ウォーターフロントブームの感があります。

今回は特にハーバーランドの話を中心に、その具体的な計画の内容や、今後の神戸のウォーターフロント開発の展望などについてお話しをおうがいたいと思います。



天川 佳美さん



横口 勝裕さん



松下 紳宏さん



喜旦 元和さん



小林 都雄さん

す。

まず、ハーバーランド計画がどういう経緯で生まれたのか、また実際にどういったものが建設されるのかについてお話し願えますか。

嶋田 計画の経緯については、二つの論議が結びついて生まれてきたと言えます。一つはインナーシティ問題。

さびれてきた街をどう活性化するかということ。もう一つはこの計画の建設地である旧国鉄の湊川貨物駅跡地をどう利用するかという問題です。

もともとはこの地域が神戸的な文化の発祥の地だったんですが、街の中心が三宮の方に移るに従ってさびれてきた。その後の市内の再開発計画でも後回しにされてきたんです。それがこの計画でやっと目の目を見るわけですね。これが完成すれば、その刺激で新開地などの周辺地域にも活性化の波が及ぶと思う。外部から伊賀先生、小林先生と私が計画に加わりました。

松下 「海につながる文化都市心の創造」というのがこの計画の総合的なテーマなんですが、それはさらに3つの骨子から成り立っています。まず第一に「新しい都市拠点創り」。今までの神戸の都心機能は三宮に一点集中していましたが、それをこの計画で神戸駅周辺を第二の都心の西の核にしようというわけです。それも三宮の商業性の高い都心機能に対して、文化性の高い都心機能を持たせたい。それによって複眼的な都市づくりをしたいわけです。さらに、都心の核が二つできれば、その間を結ぶルートとして元町周辺等もさらに活性化化する。つまりH型の都市構成が期待できるわけです。第二は「複合多機能都市の整備」。これからの都市に期待されるものは、産業構造の変化、市民の個性的なニーズ、あるいは21世紀の高度情報システムに対応しうる機能ですが、この計画はそういう街づくりの核になるものなんです。そして第三は「環境を活かした街づくり」。海に面しているということ、あるいはJRや地下鉄など交通環境に恵まれていることなど、この地域の環境や立地条件を最大

限に活かした街づくりをしようということです。そしてここに民間活力も大いに導入して、さらにいい街にしたい。

—— この計画が始まったのはいつ頃ですか。

松下 10数年前から地元の下たちでも研究されてきました。そして、湊川貨物駅の機能が停止した57年の11月頃から具体的な再開発の動きが出てきたんです。

—— 具体的な施設建設の計画は？

松下 まず中央部に総合児童センター。その南側に住宅供給公社等の住宅群、さらに南に新しい小学校・盲学校や地域文化センターを作ります。また、大阪ガスの神戸支社ビルも建設されます。ここには大阪ガスの支社機能の他に、地域冷暖房を管理する機能も設置されます。

今後の計画としては、民間の事業コンペで、国道に面した部分にはホテルや百貨店、第三セクターによる情報センターを含めたオフィスビル、内部には百貨店、量販店、オフィスビルなどが入る予定になっています。また、国道の下を横断してサンコウベと接続するハーバーランド地下街や、入江の部分にはさまざまな娯楽施設や文化施設、緑地公園も計画しています。

—— 完成はいつ頃になりますか。

松下 道路や宅地などの基盤整備は64年、建物類は67年度の完成を想定しています。

—— 完成するとどれくらい人の街になりますか。

松下 住宅は約900戸、人口は約3千人ぐらいになると思います。住宅外の施設利用者も含めた利用人口は現状ではまだ何とも言えません。

—— ホテルなどの観光施設も多くできるわけですから観光客の誘客も必要になってくると思いますが、その辺の計画はいかがですか。

橋口 ポートアイランド、メリケンパークに続いて、今回、ハーバーランドが新しい水際の街として誕生するわけですね。もちろんそこに住む人もたくさんでてくるわけですが、観光地域として外部からもたくさんの方が来

てくれる街にしたい。

神戸への観光客の入込数は年間約二千万人。その中でも港地区は二百数十万人と非常に割合が大きい。しかも年度別に見ると、52年が147万人なのに比べて61年は284万人と伸び率も非常に高いわけです。また、昨年メリケンパークがオープンした時など、オープン記念の祭典だけで春夏合わせて28万人が来ている。今ウォーターフロントブームなどと言われていますが、やはり港というのは観光客にとって非常に魅力があるんですね。ですから、ハーバーランドもそういう港の魅力を最大限に生かした街にしたい。観光客というのは、そこに行かなくや見れないものがあるとか食べれないものがあるとか、何か魅力があれば多少交通が不便でも来てくれるんですね。ですから、そういう魅力をPRすることも大切ですね。

できれば、単なる観光という狭い概念を超えて、界隈性のある街づくりをしたい。

喜旦 メリケンパーク、ハーバーランド等、今までの神戸のウォーターフロント再開発は非常にレベルの高いものになっている。海外のウォーターフロントの諸施設と比べて、神戸のそれは決して引けをとらない。強いて言えばレクリエーション的なものが少ないかなあとというぐらいで、特にハーバーランドは市内でも例の少ない総合的な再開発です。ウォーターフロントの再開発を最初に海外で言い出した時期は60年代に遡るんです。神戸では51年のマスタープランで、ウォーターフロントの緑化推進、親水機能の向上を打ち出しています。その頃に比べると現在のウォーターフロントの考え方はすごく進歩しています。海外での実践例を研究した成果でしょうね。

観光の面で言うと、今後は須磨から舞子の海岸が大きい期待できると思います。明石海峡大橋が完成すればさらにいい。ただ、須磨は国道の南だけでなく北も含めた開発が必要です。また兵庫、長田南部のインナーシティ対策に長田港・運河の果たす役割は非常に大きいですね。

時間をかけて、じっくり育てる街に

—— 64年の市制100周年の年に基盤整備が完成するといふことですが、このハーバーランド計画は神戸市が進めている諸プロジェクトの中ではどのように位置づけられているんでしょうか。

喜旦 64年には神戸を始め全国で39の市が市制100周年を迎えます。他の市では博覧会など派手に記念イベントをやるようですが、神戸市は逆に地味にやろうと思っているんです。64年に完成する事業と46年にスタートする事業で意義ある事業を市制100周年の記念事業と位置づけております。ハーバーランド計画も市制100周年を記念する事業の一つなんです。

神戸は長いウォーターフロントを持っていますから、その全てを再開発するのは不可能です。ある程度機能

的、拠点的にならざるをえないと思います。そういう意味では、ハーバーランド計画は神戸のウォーターフロント再開発の中での代表例として位置づけたいわけです。

—— 今まで神戸市の方々にお話しをうかがってきたわけですが、市民の側として感想はいかがですか。

小林 今もお話に出たように神戸は非常に長いウォーターフロントを持っている。そこで重要なのは、水際の機能分担だと思うんです。現状を見ると、須磨以西は観光やレクリエーションの施設が発達している。市街地の前面は港湾施設や工業地帯となっていますが、性格的には暖味でしょ。これを西と東とに分けて性格づけをしようとは思ってはいません。例えば貨物やコンテナなど流通のメインとしては東を想定し、西は都市型利用中心にすればいい。もちろんそれには、既存の重厚長大の臨海企業がそれに対応するように事業の高度化を

計る必要があるわけです。今までの港でやってきたことしかやらないというのでは身動きがとれない。「都市としての港」という考え方で、企業もより高度に柔軟に都市づくりに参加すべきだと思う。

—— 天川さんは「ハーバーランド」のネーミングをされたわけですが、どういうイメージで作られましたか。

天川 ネーミングをしたのは59年の10月で、もうだいぶん昔の話になります(笑)。私自身の中にある「港」という言葉は「ポート」「マリン」「ハーバー」だったんです。でも、ポートは「ポートタワー」、マリンは「ヨット」というイメージが既にでき上がってしまったので、新しい町としては「ハーバー」を選びました。で、「ランド」はありふれているとは思いましたが、ポートアイランド、六甲アイラ

ハーバーランドの完成イメージ

ンドに続いてくりかえしのリズムがあつていいと思つて、「ハーバーランド」に決めました。

—— 計画の内容に関してはいかがですか。

天川 水辺にフェリーのターミナルや駐車場ができる計画ですが、一個人の意見としては水辺をぐるっと歩ける遊歩道がハーバーランド全体をとり囲むといいですね。ポर्टアイランドにしても、そういう水際全部を開放したスペースがないと思いますが。

松下 そういうスペースも必要だと思いますが、ただ歩けるだけでなく重層的な利用スペースにしたい。

喜且 神戸らしい良いネーミングなのですが市に対する注文として、例えば「ポर्टアイランド」や「六甲アイランド」と言っても神戸以外の人にはどういう街なのかわからない。その点、西神の「ハイテクパーク」や大阪の「テクノポート」などは、何が展開されるのかわかりやすい、やはり誰が聞いても正確な街のイメージが湧くようなネーミングが必要だと思うんです。

嶋田 ところで、ハーバーランドから見た神戸の景観はさぞ素晴らしいでしょうね。

橋口 海上の船から見たハーバーランドの景観も素晴らしいものにしたいですね。魅力ある街づくりをどんどん進めたい。「水」の持つ吸引力は計り知れないですからね。

喜且 63年度から垂水漁港の西側10ヘクタールを埋め立てて漁業と観光を両立させる「垂水マリノベーション計画」を進めようとしています。完成すればホテルやシーフードレストラン、海洋牧場、魚市、遊覧船の発着場などもできます。そうすれば明石海峡大橋、須磨海岸、運河、神戸港等とのネットワークも実現でき、ハーバーランドもよりグレートアップすることでしょう。

松下 まあ、今までハーバーランド計画の現状などを紹介してきたわけですが、もちろん我々としても期待や希望、また課題も持っているんです。一般には、商業施設がかなり多い計画ではないか、と思われがちですが、実際にはウォーターフロントの楽しさを味わってもらいた

めのいろんな計画があるんです。例えば商業施設といつても、中には単なる物販ではないホールなどの文化的な施設も入っているし、オフィスにしてもかなり個性的なものも計画されております。また、その地域だけを商圏とするのではなく、商圏をどんどん外へ拡大するための施設も導入するよう努力してゆきたいと思っています。

今後の課題としては、古い歴史のある高浜岸壁をどうするか、また中突堤の臨海部やハーバーランドの入江のあり方の問題などですね。それから、フラワーロードからハーバーランドまでの間をいかに利用して回遊性のあるウォーターフロントを作るかですね。いずれもその地域だけのポテンシャルを上げるのではなく、元町や新開地など周辺もいっしょになりながら、なおかつ既存のものとは差異化を計り個性的で回遊性のある開発をしたい。とは言っても市だけでは無理なので、市民や企業の方々の知恵を借りながらやっていきたいわけです。

—— かなりハーバーランドの輪郭がはっきりしてきましたね。最後に、今後のウォーターフロント開発の展望などをおうかがいしたいと思います。

嶋田 今後どうなっていくのかわかりませんが、やはり街が生き生きするためにそこに人が住んでいることが大切だと思う。商業施設も必要ですが、人が住むための住宅をもっと作るべきですね。

小林 高浜岸壁という由緒ある場所、新しい都心づくりの中に歴史を残すことも考えて欲しい。レンガの倉庫、石積の護岸、望楼の3つは是非保存して欲しい。歴史を活かすことが街の厚みになると思うのです。

嶋田 この計画地の界限は神戸の中でも忘れ去られた地域ですから、それを思い出させるものにして欲しいですね。古いものを再生することも大事です。

小林 ポートアイランドは美しい街ですが、すべてが新しくてか何か突然できた街のような冷たい感じがする。

松下 何も慌てて全てを新しくつくる必要はないので、時間をかけてじっくりと息の長い街を作りたいですね。

田崎真珠 ㈱

取締役社長 田崎 俊作
神戸市中央区港島中町6-3-2
TEL (078) 302-3321

㈱オールスタイル総本社

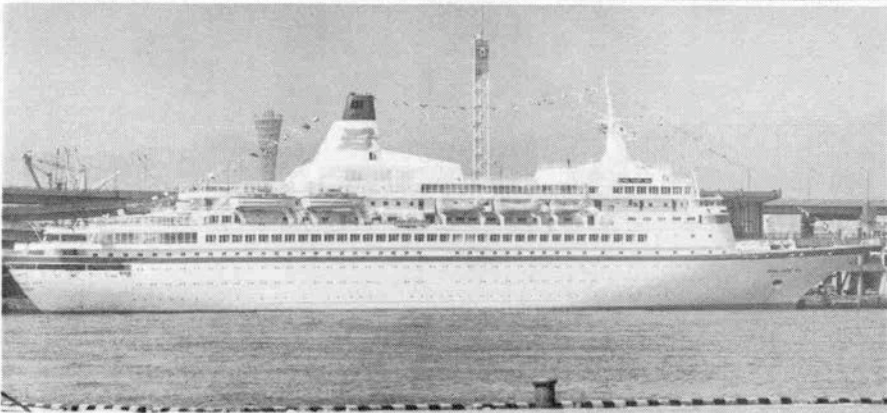
取締役社長 川上 勉
神戸市中央区港島中町6丁目5-1
TEL (078) 302-3311



□開け行く神戸、開け行くウォーターフロント

光る空、光る海、光る街。

今、神戸はさらに輝きを――。



加藤汽船株式会社

代表取締役社長 小嶋 直

神戸市中央区磯上通 8-3-7
電話 (078) 251-8533

神戸海事検定株式会社

代表取締役社長 荒川 義雄

神戸市中央区下山手通 3-1-17
神戸マリンビル
電話 (078) 391-1885

義勇海運株式会社

代表取締役 岡本 賛

神戸市中央区新港町17番の2
電話 (078) 391-8061

株式会社 ラジオ関西

取締役社長 山崎 進

神戸市須磨区行幸町1丁目1-6
電話 (078) 731-4321 (代)

北野異人館

(株)エンパイア・
トレーディング

代表取締役 鹿野 文一

神戸市中央区北野町 2-9-22
電話 (078) 222-2001

株式会社 エルアイシー

代表取締役 青木 幸夫

神戸市中央区港島中町 6-9-1
国際交流会館 7 F
電話 (078) 302-4009

社団法人神戸港振興協会

神戸市中央区波止場町地先
神戸海洋博物館内
電話 (078) 391-6751 (代)

アーバンライフ
株式会社

取締役社長 廣瀬 吉彦

大阪市南区南船場 4-4-3
電話 (06) 244-1011

